

表5 高山の消防組 高山市史下巻より

年号	西暦	月日	内 容
天明3年	1783	正月	大工、木挽きの者152人に火消方の役を勤めさせた。総札数152枚。
文政9～13年	1826～		町年寄、火消し道具を整理、火消方組の端緒。合図は、東組・はん、西組・ほら貝、南組・鉦、北組・太鼓、水組・拍子木であった。
天保14年	1843	1月1日	火消し組、初めて出初式を陣屋前で行う。
弘化年間	1844～		8組の消防組できる。
文久元年	1861	6月3日	近年、火消人足の風議悪し。町会所に呼び出し。
明治2年	1869	6月23日	神明講、皮羽織新調が身分不相応ということで、差し止め。
明治12年	1879	11月	岐阜県より防火準則の布達有り。古来よりの消防組があると要望、旧慣習聞きとどけられた。
明治25年	1892	9月1日	住民平ほか4人、ポンプ3台高山町へ寄付。
大正9年	1920	7月	ガソリンポンプ1台購入。代価4,550円。
昭和14年	1939	1月24日	警防団令発令。従来の消防組廃止。
昭和22年	1947	8月22日	消防団設置条例施行。警防団解散、消防団発会式。
昭和26年 当時	1951～		自動車ポンプ11台、ガソリンポンプ5台、腕用ポンプ8台、市消防職員20人、消防団361人。
昭和47年	1972		飛騨消防組合設立、非常時の協力体制組織。
平成17年	2005	2月	周辺9町村と合併、日本一広い市となった。

※掲載されている情報（文章、写真など）は、著作権法上認められた例外を除き、高山市教育委員会に無断で複製・引用・転用・転載などの利用をすることはできません。